

## 湖西市立学校教育施設適正化検討委員会報告書（令和 4 年 3 月）【概要版】

## 5 望ましい教育環境について (p.10)

## (1) 単学級における児童生徒数

## ①小規模小学校（白須賀小、東小、知波田小）について

小学校で、全ての学年で単学級だった場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数について、検討した結果、以下のようになりました。

## 【単学級の場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数】

小学校では、20 人以上は必要である。

## ○理由

- ・きめ細かい指導ができる点と社会性を身につける点の両面から勘案すると 20 人以上は必要である。学習面では、人数が少ないことで、個別に指導できる時間が増えるため、教師によるきめ細かい指導が可能となる。そのため、学習面では、少ない方が良い面がある。しかし、社会性を身につける点では、人数が少ないことで、多様な考えにふれる機会がなくなり、自分の考えと比べたり、よい行いやアイデアを取り入れたりといった経験が乏しくなってしまう。他者から学び、成長するという点で、20 人は必要である。
- ・幼児期から児童期と、子どもたちは小集団から徐々に社会性を身につけて、大きな集団を形成していく。集団で活動することによって、自分と他者の相違点に気付きながら、社会に出るために必要な資質・能力を身につけていくことを考えると必要な数であるから。
- ・国の進める小学校 35 人学級編成では、36 人で 2 学級になり、1 学級 18 人となる。この人数からも 20 人以上が望ましい。
- ・人間関係がこじれてしまった場合には、児童にとっても、保護者にとっても、新たな人間関係を作る機会が必要である。人数が少なすぎると、人間関係の修復が難しくなってしまう場合に、逃げ道がなくなってしまうため。
- ・PTA の運営の面からも人数が少なすぎると負担が大きくなる。円滑に運営するためにも人数が必要であるため。

## ②小規模中学校（白須賀中、湖西中）について

中学校で、全ての学年で単学級だった場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数について、検討した結果、以下のようになりました。

## 【単学級の場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数】

中学校では、30 人以上は必要である。

## ○理由

- ・高校では、40 人学級である。人数が少ないと高校進学時にギャップが大きくなり、適応が難しくなることを考えると、30 人以上は必要である。
- ・保健体育は、男女別で学習する。20 人だと 10 人ずつになってしまう。これだと、学習内容に制限が生じる可能性がある。学習する機会を保障するためにも 30 人は必要である。

- ・自分の夢や目標に向かって、切磋琢磨しながら学校生活を送り、心身を大きく成長させることができる時期であるので、30人は必要である。
- ・思春期で、様々なことを思い、悩む時期である。人と関わる範囲も大きくなる時期であるので、できるだけ多くの人がいて、多様性を学ぶことが望ましいから。また、人間関係に問題が生じた場合でも、30人はいた方が、新たな人間関係を築きやすい。

## (2) 学級数 (p.11)

小規模校では、単学級という状況が続いており、そのメリットを生かしながら、デメリットを改善するようにして、学校運営が行われており、現在の状況は、子どもたちの健やかな成長を促すことができる教育環境が維持されていると考えています。しかし、今後も、少子化が進むため、現在の教育活動を維持し、教育効果を上げていくことが難しくなっていきます。全ての学級が単学級の小規模校においては、近い将来、小学校で20人以上、中学校で30人以上を維持することが難しくなっていきます。そこで、1学年でどれくらいの学級数が、子どもたちにとって望ましい教育環境として必要であるのかについて検討しました。その結果は以下のようになりました。

### 【望ましい教育環境としての学級数】

小中学校で、1学年2学級以上、できれば3学級が必要である。

#### ○理由

- ・単学級では、良好な関係が続けばよいが、人間関係に大きな問題が生じた場合には、子どもにも、保護者にも居場所がなくなってしまう可能性が高いため、2学級以上が必要である。
- ・2学級以上あることで、学級ごとに競い合う学校行事を通して、協力することの大切さを学んだり、活気のある活動によって達成感を味わい、心身の成長を促したりすることができるから。
- ・社会へ出ていく上で、コミュニケーション能力は非常に大切である。毎年、クラス替えがあることで、人と積極的にかかわり、仲間づくりをする機会があるため、コミュニケーション能力を育成することができるから。
- ・できれば3学級あることで、子どもの人間関係に配慮しながら、学級編成が可能であり、子どもたちも2学級よりも、人間関係の固定化を防ぐことができる。
- ・教員の育成という点からも、1学年で2学級以上あることで、学年運営を相談して進め、経験の浅い教職員がベテランの教職員と話し合っ、アイデアを練り、質の高い教育の実現と、教職員の資質・能力の向上につながるから。
- ・PTA活動の負担を軽減するためにも必要な学級数である。

## 6 望ましい教育環境に近づけるための手法について

### (2) 本市における効果的な手法 (p.13)

通学区域の変更や学校の自由選択制は本市には、なじまず、統廃合や小中一貫による適正配置が効果的である。

#### ○理由

- ・通学区域が旧の町村に基づいて設置されている。したがって通学区域を大きくしたり、小さくしたりすると行政区と通学区域の不一致が生じるため、保護者や地域の理解は、得られないと考える。また、学校選択制を導入した場合、状況によっては小規模校の子どもの数を増やすために選択制にしたのに、逆に小規模校の子どもたちが大きな学校を選択して、ますます小規模校の子どもの数が少なくなってしまうことも考えられる。まずは、統廃合を選択してするのが良い。統廃合をベースに考えていって、それで補えない場合には、色々な手法を考えるのが良い。
- ・通学区域の変更というのは、保護者、地域と学校の繋がりががあるので、保護者、地域の理解は得られにくい。学校と地域が繋がって、色々な活動を行っている。住んでいる行政区と異なる学校に通うことは、教育効果が低くなる。
- ・小中一体化や統廃合によって学校を合わせるだけでなく、本市の政策などによって人を増やしていくということも大事になってくる。両輪でやっていくことが大切である。
- ・判断する上で大事なことは、そこに通っていく子どもたち、保護者のことをまず第1に考えること。施設の老朽化を考えた時に、統廃合を計画的に進め、子どもたちが親になったときに我が子を通わせたいと思えるような学校をつくっていくことが大事である。子どもたちや、保護者がわくわくするような学校が必要である。